

1 設立趣旨・目的

四方を海に囲まれ、海洋国家としての歴史を有する日本は、海洋に関するあらゆる分野に関係性を有し、海は極めて重要な役割を果たしています。

中でも、呉市は瀬戸内海のほぼ中央部に位置し、海洋・海事に関わるものづくりや海運業の伝統とともに、造船、舶用工業、海運等の瀬戸内海事クラスターが形成されています。また、広島県立総合技術研究所水産海洋技術センターや呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）、海上保安大学校、広島大学の練習船基地など教育・研究機関の集積もあり、海洋・海事をテーマとしたまちづくりに、発展へ向けた大きな可能性があります。

一方、近年、呉市においては、少子高齢化や人口減少、大規模事業所の撤退、大規模災害などに伴う影響が続いており、そうした状況を打破し、地域社会を活性化していくためには、地域の様々なステークホルダーが強く連携し、それぞれが有する強み、リソースを生かしていく仕組みが必要となります。

その先行的な取組の一つとして、現在広島大学と東広島市においては、Town（都市）と Gown（大学）が連携してまちづくりに取り組み、共に発展を目指す「Town & Gown 構想」を進めていますが、この枠組みを呉市と広島大学の間においても構築し、海洋・海事分野をフィールドとして、地域の創生を目指していくこととしました。

行政機関や教育機関、関係団体、企業など様々な主体に参画いただき、海洋・海事の国際的拠点づくりの取組を積極的に進めていくことを目的として「呉市・広島大学 Town & Gown 構想 海洋文化都市くれ推進協議会」（以下、「協議会」という。）を設立することといたします。

2 協議会が取り組む事項

令和5年7月8日、呉市と広島大学、海上保安大学校、公益財団法人笹川平和財団は、呉市においてアジアの海洋・海事の国際的拠点をつくるということを目標に、Town & Gown 構想推進に向けた協定を締結いたしました。

協議会としても、海洋・海事分野を中心とした持続可能な未来ビジョンの実現に向けて、これらの連携事項に取り組んでいきます。

- （１）アジアにおける海洋・海事の国際的教育・研究・社会連携の拠点形成
- （２）海洋・海事関係の国際機関等との連携
- （３）海洋・海事に係る学際的な学位プログラムの実施等による人材育成
- （４）先進技術を活用した海洋・海事に関する DX の推進
- （５）瀬戸内海の自然環境を生かした GX の推進

- (6) 新たな海洋・海事産業の創出に向けた連携
- (7) その他、海洋・海事の国際的な拠点の形成に伴う連携・協力

さらに、呉市に教育・研究・社会連携の拠点施設を整備し、呉市に海外からも多くの研究者や学生が集まり、加えて海洋・海事関係の産業が一層集積するとともに、イベントの開催、内外への情報発信、国際ネットワークの構築により、アジアにおける海洋・海事の新たな国際的拠点の形成に必要な事業に取り組むこととします。

3 協議会の構成員

- (1) 海洋・海事分野の施策に取り組む行政機関
- (2) 海洋・海事分野における教育機関
- (3) 海洋・海事分野の団体（任意団体を含む）
- (4) 海洋・海事分野に関わる企業
- (5) その他

関係各位におかれましては、本協議会の設立趣旨にご理解とご賛同を賜り、ぜひご参画いただきますようお願い申し上げます。

令和6年1月4日

(設立発起人)

呉市長	新原 芳明
広島大学長	越智 光夫
海上保安大学校長	江口 満
公益財団法人笹川平和財団理事長	角南 篤